

1 学長就任インタビュー

世界に存在感を示す熊本大学へ
目指すは未来志向の知の拠点づくり

3 [特集]知と社会 Vol.32

「世界」をフィールドに よりグローバルに動く海外学術調査

West Elevation

7 地域とともに

生命科学をもっと身近に
生命資源研究・支援センター

9 研究室探訪

看護技術を支える“人間理解”
医学部 保健学科 基礎看護学 前田研究室

11 国際交流

次世代を担う研究者・技術者育成のために
第2回学生国際会議を北京大学で開催

13 卒業生ジャーナル

株式会社ワイス・リーディング 代表取締役 中山善晴さん
F Hoffmann-La Roche, Ltd. 新薬開発部門 福島優美さん

15 くまもと自慢 file.4

400年前の空気が、今もここに

16 Topics

17 INFORMATION

世界に存在感を示す 熊本大学へ 目指すは未来志向の知の拠点づくり

崎元達郎前学長の任期満了に伴い、4月から谷口功前工学部長が新しい熊本大学長に就任しました。今年は第1期中期目標・計画の最終年度であり、同時に次の第2期中期目標・計画策定の重要な年にもあたります。谷口新学長に、学長としての抱負と世界に通用する最先端の大学を目指すための戦略についてうかがいました。

第12代 熊本大学長 谷口 功

プロフィール

奈良県出身。昭和50年、東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻(博士課程)修了。昭和52年10月に熊本大学工学部助手、同54年11月同講師、同56年11月同助教授、平成2年4月同教授。同14年11月から工学部長を3期務め、同21年4月に熊本大学長に就任。

同7年日本化学会学術賞受賞。同18年～日本学術会議連携会員。同19年アメリカ電気化学会有機生物部会部会長。

地域と世界を 引っ張る“熊大力”

—新学長として、これから目指す熊本大学の姿は。

地域を大事にしながら、世界の大学として機能する「存在感のある大学」にしたいと考えています。本学の伝統・歴史に恥じないよう、将来・未来に向かって新時代を創り出す未来志向の大学にしたい。

少子化や国の財政悪化、さらには世界金融危機などを背景に、大学を取り巻く環境そのものが全体的に厳しい時期を迎えています。加えて大学間の競争が激しくなり、格差も大きくなりつつあります。こんな困難な時代だからこそ、地域の「知の拠点」である本学が元気になって、地域と世界を引っ張っていかねばならないと思います。

—具体的には、どのようなスタンスで取り組もうとお考えですか。

大学の社会的使命は、教育(人材育成)、研究(知の創造)、社会貢献(人材育成や知の創造に基づく社会的な還元)の3点に集約されます。

熊本大学は「人の命、人と自然、人と社会」、つまり生命科学分野、自然科学分野、人文社会分野を3本柱に、それぞれの分野と連携しながら、さらに新しい分野を先導していくための「知の拠点づくり」を目指します。

また、総合大学として、その成果を社会に還元しなければなりません。そのために大事なことは、「教育」と

「研究」のバランスのとれた環境の整備です。教養教育と専門教育の融合によって、人間として生きていくための力と世界を舞台に活躍できる人材を育成すること。“熊大力”の向上につなげることを目指します。

研究面においては、グローバルCOEをはじめとする世界最高水準の研究を強化することが重要です。現在、本学では生命科学系で2拠点、自然科学系で1拠点が動いていますが、できれば人文社会系、あるいはそれと共同した総合分野系で1拠点の形成をぜひ実現したい。

目標をひと言で表現すれば「世の中のために役立つ大学」と認めてもらうこと。大学の内からは「誇り」と思える大学、外からは「憧れられる」大学となることです。

国際交流・貢献で 海外へ情報発信を

—学長として、今後はどんな取り組みをお考えでしょうか。

工学部長時代には東京や大阪、海外では上海、韓国、インドネシアで「熊本大学フォーラム」を全学的に取り組んできました。今秋には、熊大設立60周年記念事業として、東京上野の国立科学博物館で本学の活動や研究成果を示すイベントを計画しています。

国際交流の面では、アジアの学生を積極的に受け入れることで、国際貢献を目指してきました。将来は提

携している世界23か国、82の教育研究機関と共同研究やイベントに取り組みたいというのが私の夢です。国際協力を推進することで本学の知名度が世界的に上がり、留学生の交流も活発になります。そのためにも、新たに国際交流・国際貢献分野の副学長を置く構想を抱えています。

—本年度は法人化に伴う第1期中期目標・計画の最終年度にあたり、第2期中期目標・計画の策定という重要な仕事に取り組むわけですが、特に重点を置きたいことは。

第2期中期目標・計画策定は今年6月に文部科学省に計画案を示し、来年3月に計画を確定させます。本学の将来を見据えた計画を策定しなければなりません。第1期中期目標・計画の仕上げとして、「教養教育と専門教育の融合」、「国際化、グローバル化への対応」、「自然科学系、生命科学系に続いて、人文社会系を3番目の柱にする」の3点について基礎固めをしっかりとやって、第2期中期目標・計画へつなげていきたいと考えています。

学生が「未来へ向かって新しいことを創り出す」という気概を持って、学生や教職員が創意工夫を導き出せるような環境づくりを進めるのが私の役割です。熊大の学生が元気になること、底力を出して新しいものを創り出せる力を持っていること、国難の時代を乗り越える能力を持っていること。このような大学を目指したいと思っています。

熊本大学理事・副学長 (平成21年度)



安部 眞一
理事(教育・学生担当)
副学長



山村 研一
理事(研究・社会貢献担当)
副学長



田口 宏昭
理事
(目標・計画・評価・
情報・広報・基金・同窓会担当)
副学長



森 光昭
理事(人事・労務・男女共同参画・
附属学校園・個人評価担当)



山本 晃
理事(財務・施設担当)
事務局長



野口 敏夫
理事(法務担当)(非常勤)



古川 憲治
副学長(国際交流担当)



猪股 裕紀洋
副学長(病院経営担当)
附属病院長

「世界」をフィールドによりグローバルに動く海外学術調査

本学では、多分野の研究者が海外でも積極的に学術調査を行なっている。その研究成果は、日本だけでなく世界までも視野に入れ、大きな広がりを見せている。今年6月1日から8月31日まで、熊本大学設立60周年を記念して、五高記念館で本学の海外学術調査の成果を集めた展覧会を開催する。これに先立ち、世界をフィールドにした本学の学術調査の一部を紹介する。



古代ギリシア建築の調査成果で美の哲学に迫る

西洋古代建築研究の トップランナー

国内で行われている西洋の古代建築に関する研究のうち、古代ギリシア建築に関する研究で国際的に突出した研究成果を出しているのが、伊藤重剛教授だ。昭和1969年から1971年にかけて地中海地域で古代建築の調査を行った本学の堀内清治教授(当時)の下で学び、その研究を引き継いだ。堀内教授の時代から実に40年以上もの実績を積み重ねた本学の古代ギリシア建築に関する研究は、東京大学の古代ローマ研究や早稲田大学の

古代エジプト研究と並ぶ西洋古代建築に関する研究のトップランナーである。

「ギリシアの古代建築は西洋建築の起源となるもので、比率(プロポーション)などの美の原理は現代建築にも引き継がれ、生かされている。古代ギリシアを中心とする地中海建築を研究し、美の哲学に迫ることを目指しています」と語る伊藤教授。研究を進めるにつれ、外国の資料や写真だけでなく、「やはり堀内先生のように現地調査をしなければ…」と考えるようになったと言う。堀内教授と伊藤教授との出会いが、本学



大学院自然科学研究科(工学系)
伊藤重剛 教授

が古代ギリシア建築研究のリード役となる礎を築いた。

学生も参加する現地調査

伊藤教授は、1993年からギリシア・デルフィでアテナ・プロナイア神域の予備調査に着手。翌1994年から1996年にかけては実測調査に取り組み、1997年からはギリシア・メッセネのアスクレピオス神域で家型墓群・神殿・劇場・競技場などの実測調査にあたるなど、現地調査を基にし



メッセネの家型墓の実測風景。最新の測量機械も用いるが、人間の眼と手で行う実測は、遺構をよく調べるためにも欠かせない。

柱が並んだ細長い建物を意味するストアの遺跡(左)とその3次元復元CG。



調査では、アジア航測(株)やギリシアの技術者の協力により、模型ヘリコプターによる空中撮影も行った。



メッセネは紀元前4～3世紀にかけて栄えた都市国家。紀元1世紀ごろ、地震によって建物が崩壊。紀元4～5世紀、ローマ帝国の滅亡とともに衰退。最盛期の人口はおそらく5万人を下らなかったと思われるが、現在は150人ほどの寒村。

た研究を着実に積み上げてきた。

ギリシア・メッセネの現地調査は、年間で平均45日ほど。長い年には2か月にわたることもある。「ギリシアの考古学調査班が発掘し、私たちは出土した建築部材の一つひとつ集めて、図面化します。2000年以上も昔の建築なので、もちろん壊れていることがほとんど。平面図、立面図、断面図を作成して、その記録を基に復元図まで作り上げます」と言う伊藤教授。写真撮影、文章での記録を綿密に行うことで、復元図と合わせ、最終的には3次元CGによって当時の姿を明らかにしている。

伊藤研究室の現地調査のもう一つの特徴は、伊藤教授ら専門家3、4人に加えて、院生や学部生7、8人が参加して、貴重な出土品の記録作業にあたっていることだ。学部生時代から調

査に参加している安井伸顕さん(大学院自然科学研究科博士後期課程2年)は「日中は40℃を超える中、朝から夜8時までの作業が続きます。きつい面もありますが、伊藤先生の現地調査はこれまでに発掘されていなかった新たな場所で行うのが魅力です。また、現地ギリシアの考古学調査隊のほか、ドイツの考古学や建築学の調査隊も参加していて、外国の研究者と交流できることもよい経験になります」と話している。

伊藤教授は「どうやって造ったかが大切です。そして、どのように各部分の寸法をきめたのかを推理していく。古代ギリシア人は、『美しいということはプロポーションだ』と考えていたと思います。古代ギリシア建築の研究を基に、西洋文化の礎となった古代ギリシア人の哲学の領域にまで迫って

いきたい」と語る。

日本初の現地発掘調査で研究者育成

伊藤教授は、2010年からオリンピア近くのフィガリアで紀元前6～5世紀の神殿、劇場、競技場などの発掘調査を計画している。本学が主体となり、日本の大学の考古学や美術史などの研究者が集結する画期的なプロジェクトである。ギリシアで、考古学的な発掘からその後の整理・分析まで全てを日本の調査団が行なうのは初めて。伊藤教授は「この調査で、海外での発掘調査に必要な交渉力やマネジメント力を持った研究者を育てたい」とも語り、古代ギリシアの美の哲学に迫るといふ研究目標とともに研究者育成の目標も掲げている。

極東アジアの古代雑穀農耕の謎に挑む



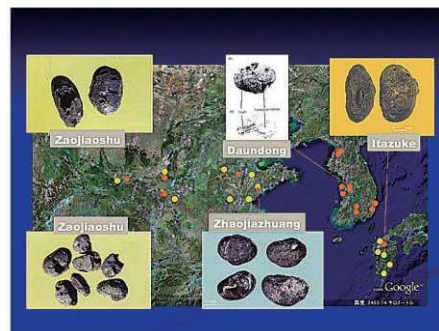
文学部埋蔵文化財調査室
小畑弘己 准教授



2002年に行ったロシア共和国クrouノフカでの遺跡発掘調査の様子。テントに野営しながらの調査で、小畑准教授は(中央)ロシアの調査隊に発掘方法を指導した。



土器についたダイズの圧痕。これら圧痕を調べることで、小畑准教授は古代の雑穀農耕を明らかにしようとしている。



先史時代のダイズの分布図

先史時代のダイズは、アジア各地で発見されている。

発想の転換で見えないものが見えてくる

小畑弘己准教授は、今年8月から2週間の予定で、モンゴル大草原での発掘調査を予定している。目的は、植物考古学をもとに極東アジアの穀物農耕史解明の糸口をつかむことにある。

古代の雑穀に着目するきっかけが、熊本大学構内遺跡の発掘調査だった。小畑准教授は「構内には太宰府につながる古代の官道が通っていて、竪穴式住居跡から出土した土を洗うと、古代人が食べた穀物が出てきます。それを調べてみると、今から1300年ほど前には、食糧がコメから雑穀に傾斜したことが分かったんです」と言う。

発掘調査で見たことから、小畑准教授は「弥生時代以降、日本人はコメ中心の食生活を送ってきたと考えられてきたが、本当は違うのではないか」というヒントを得る。こうして、「雑穀農耕の開始」、「縄文時代の農耕の開始」について、独自の研究がスタートする。

その後、熊本県ワクド石遺跡出土の土器などで見つかった圧痕(土器を焼く過程で残った穀物などの凹み)が、大型のママの「へそ」の部分にあたることを突き止めた。小畑准教授は「それまでは、コメ以外の雑穀の圧痕など誰も注目していませんでした。発想の転換をしたら、見えないことが見えてきたのです」と語る。

その発想を研究に結びつけるために「大学近くの子飼商店街でせっせと豆を買い集めて、その『へそ』にピッタリ合う穀物を調べたら、間違いなくダイズの『へそ』だった」という。そして、おのおのぼる長崎県大野原遺跡、熊本県三万田遺跡の縄文時代後期～晩期の土器の圧痕から、縄文時代にもダイズを栽培していたという新事実にたどり着くことになる。

研究はモンゴルの大草原まで飛翔

「見ようとして見ないと、何も見えない。学問として一つのアイデアを開くと、大きく展開していける。新発見

のきっかけとなるのは、一つのアイデアと研究者としての観察心でしょう」と語る小畑准教授。

調査・研究でつかんだ「雑穀」というキーワードから、次には極東アジアの古代雑穀農耕へと、小畑准教授の研究テーマは世界的な広がりを見せ始めている。幸運にも2003年には、文学部甲元眞之教授らと行ったロシアの新石器時代遺跡の発掘で沿海州最古のキビを発見した。

また、モンゴルでは大オールドと呼ばれるチンギス・ハーンがいた都市の周辺から、雑穀を焼いた跡が見つっている。モンゴルの大草原からも穀物を栽培した証拠が見つかったのは、大発見といえる。

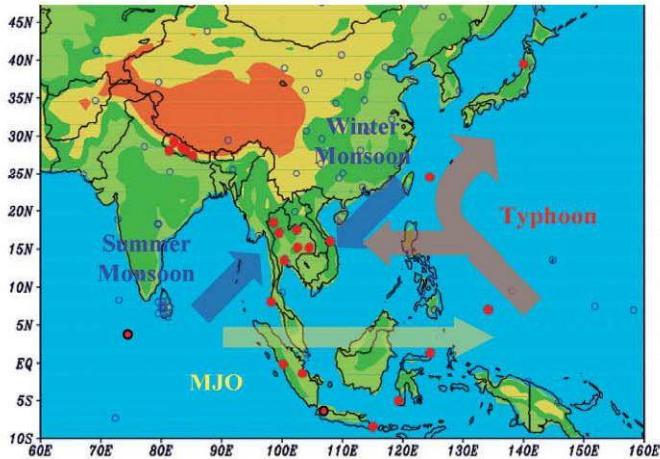
小畑准教授は「モンゴルのアウラガに農耕遺跡の調査に行きます。これから3年間はモンゴルで発掘調査をすることになるので、この歳でモンゴル語も勉強しなくてはなりません」と笑う。

「発想の転換で見えないものを見る」という小畑准教授の研究姿勢が、世界を舞台に生かされることになる。

水の安定同位体で大気水循環を解明

大学院自然科学研究科(理学系) 一柳錦平 准教授

アジアにおける大気水循環の概念図



赤い矢印は、台風の経路。青い矢印は、夏季と冬季のモンスーンの風向き。緑の矢印は、マッデン・ジュリアン振動(MJO)による人規模な雲の流れ。

赤丸は、雨水を日単位でサンプリングしている場所。青丸は、国際原子力機構(IAEA)が月単位でサンプリングしている場所。



標高 5000m を超えるチベット高原にある温泉。一柳准教授は、ここでも雨水サンプルを回収。「チベットのフィールドワークでは2週間ほどシャワーもない生活だったので、嬉しいひと時でした」と話している。



大学院自然科学研究科にある同位体質量分析計。

水の安定同位体の性質を利用

水の学問のことを「水文学」(すいもんがく)と呼ぶ。一柳錦平准教授の研究領域である「同位体水文気象学」は、「水文学」と「気象学」の重なり合う領域にあり、両者をつなぐ研究分野となる。

一柳准教授の研究では、アジアモンスーン地帯で、毎日の雨水をサンプリングするという地道な観測データの蓄積が大きな意味を持っている。これらをもとに、水蒸気の発生源や経路を推定し、エルニーニョ現象、アジアモンスーン、台風など、大気を巡る水循環のメカニズム解明に取り組んでいる。

解明のカギを握るのが水の安定同位体。同位体とは、同じ元素なのに重さが違うことを言う。水を構成するのは水素と酸素。ところが水素には重いものと軽いものがある。同様に酸素にも重い・軽いがある。化学的な性質はほとんど同じだが、原子核の中の中性子の数が違うため、重さに違いが生まれてくる。

この性質を利用することで、陸地に降る雨水の出所を知ることができる。

一柳准教授によると「熱帯で海から蒸発した水は、雲となって寒いところに運ばれ、雨となって陸地に降り注ぎます。その時には、物理的性質から重い水から順に降る。一方、海から蒸発する時には、重い水は残りやすく、軽い水は蒸発しやすいという性質があります」という。その重さについても発生源によって数値データが異なる。

こうして「どこで蒸発した水かを特定するには、既に判明している発地点ごとの水の安定同位体の数値モデルを活用します。数値モデルの値と観測値が一致すれば水の出所が分かる」という仕組みだ。

アジアモンスーン地帯での地道なフィールドワーク

研究を推進するには、モンスーン地域から雨水を採取するというフィールドワークが欠かせない。一柳准教授は「現地の関係機関に依頼して、雨水をサンプルとして採取してもらい、それを年1回、自分で受け取りに行きます。郵送などをしてもらうと、サンプルの変質を防ぐために使っているガラ

ス容器が破損する恐れがあるためです。また、現地の協力者と綿密な打ち合わせが大切だからです」。

観測地点はタイ、ベトナム、インドネシア、パラオなど、東南アジア10カ所にも及ぶ。国内では台風の時に沖縄・石垣島で観測を行い、雨水のサンプルを持ち帰っている。

一柳准教授は「私は研究室にこもってデータ分析や文献調査をやるより、フィールドワークが性に合っています。熱帯に降った雨を採取してサンプルとして持ち帰り、測定データを蓄積する。その繰り返しによって、地球の水循環のメカニズム解明に一步でも近づきたい」と言う。

今後の研究については「地球温暖化によって大気の流れが変化している。そのことを、水の安定同位体によって確認できないかと考えています。そのためには従来の観測を地道に積み重ねていくことが必要です。これまで何年にもわたってアジア各地を観測で訪れましたが、さらにその延長として観測データの蓄積を進めたい」と話している。

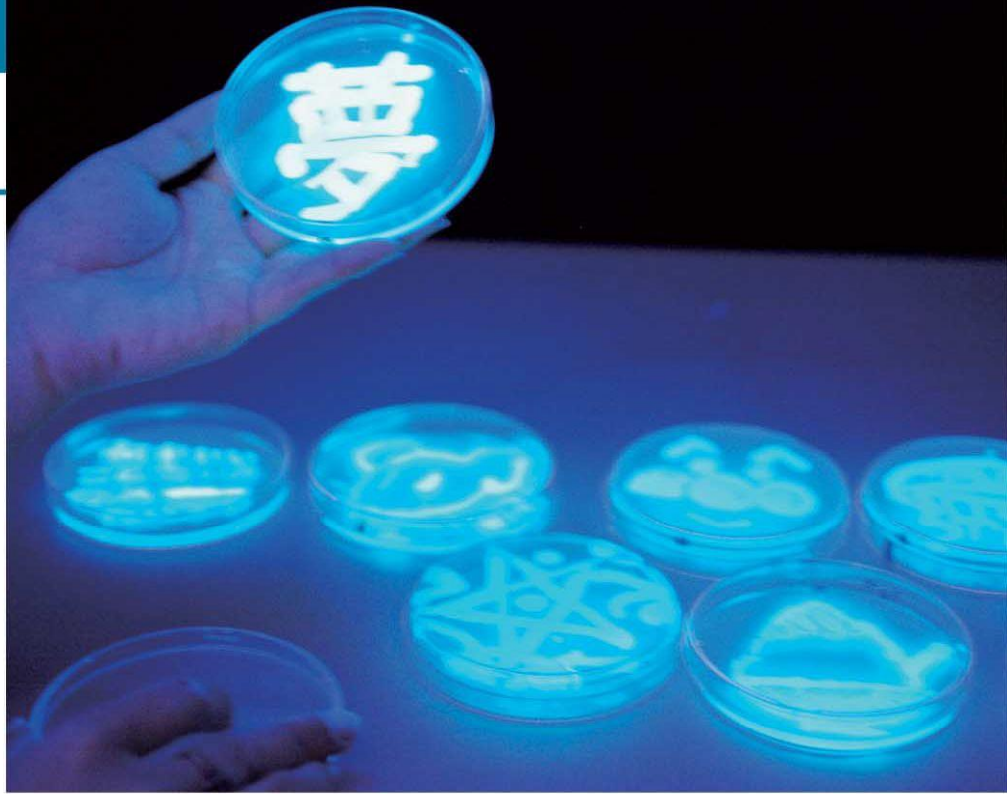
地域とともに



DNA実験の体験講座や研修会を開催

生命科学をもっと身近に

生命資源研究・支援センター



プレートに描かれた絵や文字の大腸菌コロニーが、ブラックライトに照らされて緑色に光り、浮かび上がってきました。

本学生命資源研究・支援センターは、遺伝子組換えに関する正しい知識を教育の現場や地域の人たちに深めてもらおうと、さまざまな講座や研修会を開催しています。大学の研究室で実際に DNA 実験を体験でき、遺伝子について理解しやすいと参加者に好評です。今回は、理科の先生たちを対象に開いている遺伝子教育研修会の様子を中心に、同センターの取り組みを紹介します。

「遺伝子を学びたい」という声に応えて

「わあー、いっぱい増えている」、「緑色の光がきれい」—生命資源研究・支援センター遺伝子実験施設で弾んだ声が響きます。昨年8月11日～13日に開かれた「中学校・高等学校における遺伝子教育研修会」で、遺伝子組換えの実験をする中学や高校の理科担当の先生たちです。教諭12人と会社員1人が参加しました。

先生たちがこうした遺伝子の組換え実験に参加するようになったのは、平成14年3月に文部科学省の「組換えDNA実験指針」が改正され、中学・高校においても「教育目的組

換えDNA実験」ができるようになったからです。

「子どもたちに遺伝子組換え実験を指導する方法を学びたい」という熊本県内の中学校や高校の先生からの要望に応え、同センターの荒木正健准教授たちは、先生たち向けの3日間の遺伝子組換え実験トレーニングコースを設けました。それが、この遺伝子教育研修会です。

理科室でできる組み換え実験 本学発実験キット“PIKARI”

1日目は「もっと身近に、DNA」（吉信公美子本学助教）や「医学領域で貢献する動物達」（浦野徹本学教授）などの講義を受けた後、4班に分

かれて、実際に遺伝子組換えの実験を行いました。中学・高校の理科実験室でも実施できる、本学発の“PIKARI キット”を使用して、オワンクラゲが持っている緑色に光るタンパク質 (GFP) の遺伝子を組み込んだ遺伝子組換え体 (プラスミド DNA) を導入し、大腸菌を形質転換する実験です。形質転換した菌で、先生たちは思い思いにプレートに絵や文字を描いていました。

2 日目の実習では、一晩培養した遺伝子組換えで作った、光る大腸菌のコロニー数やブラックライトに照らしたときの蛍光の見え方を観察。光る大腸菌で絵や文字を描いたプレートをブラックライトで照らすと、模様が緑色の光となって浮かび上がりました。

熱心に実験に取り組んでいた木村尚教諭 (八代市立千丁中) は「今回学んだ実験を授業の導入部分に持ってくれば、生徒も興味を持つと思います」。また、重信弘子教諭 (尚綱高) は「専門家の話を直接聞くことができ、非常に勉強になりました。教室で教えている内容と先端医療で使われている技術に共通するものがあることが分かりました。学校の勉強と最先



遺伝子組換え実験に先生たちは興奮気味。実験室は熱気に包まれました。



生命科学の最先端の知識を学校の授業に生かそうと、先生たちは真剣に講義を受けていました。

端の生命科学がつながっていることを生徒たちに伝えたいですね」と話してくれました。

荒木准教授は「学校の理科実験室でも実施できる遺伝子組換え生物を中心に紹介しています。3 日間の講義と実習は、先生たちにさまざまなことを感じ、考えてもらう機会になると思います。実際に学校の授業に応用するには何が必要か、何が問題なのか、意見を出し合いながら遺伝子教育について議論を深める入り口にしてほしいと願っています」と、教育現場で遺伝子に関する論議が広がることに期待を寄せていました。

生徒や社会人を対象にした講座も開催

同センターの遺伝子に関する実験や研修は、前述の理科教員を対象にした研修会のほかに、科学技術振興機構 (JST) サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) による

中学生や高校生を対象にした講座のほか、子どもから大人までを対象にした体験講座「遺伝子と仲良くなろう」、社会人を対象にした熊本大学公開講座「くらしの中の生命科学」など、多彩なプログラムが用意されています。また、大学の実験施設で行うだけでなく、時には、中学校や高校へ実験道具一式を持参して“出前”の形で「遺伝子組換え実験」を行うこともあります。

荒木准教授は「遺伝子について知りたいという一般の方や、DNA 実験を行いたいという中学・高校の要請に応え、遺伝子の正しい知識・情報を伝えるとともに、実験の安全確保や技術の向上を図ることを目的に、遺伝子を学び体験する講座や研修に積極的に取り組んでいます。現在、21 年度の実験希望を受け付けています。興味・関心のある方は遠慮なく問い合わせてください」と話しています。



今年 1 月 17 日～18 日に開いた体験講座「遺伝子と仲良くなろう」には、高校生たちが実際に遺伝子組換え実験を体験しました。

平成 21 年度 熊本大学公開講座
「くらしの中の生命科学 ～お酒の強さ、遺伝子で鑑定します～」
【開催予定日：平成 21 年 6 月 20 日(土)】

平成 21 年度 中学・高等学校における遺伝子教育研修会
開催予定日：平成 21 年 8 月 10 日(月)～12 日(水)】

※上記 2 つの開催場所は、いずれも熊本大学生命資源研究・支援センター遺伝子実験施設。このほかに体験講座や出前講座などもあります。
参加申し込み・問い合わせは、熊本大学生命資源研究・支援センターバイオ情報分野
荒木准教授 TEL：096-373-6501 まで



研究室 探訪

この日が初めての病院実習となった1年生4人は、前田教授の付き添いのもと、緊張した表情でナースステーションの引き継ぎに参加していました。



医学部保健学科 基礎看護学 前田研究室

看護技術を支える“人間理解”



前田ひとみ
医学部教授

看護師や保健師を目指す学生が学ぶ医学部保健学科。前田ひとみ教授は、同科の1・2年生に基礎看護学を教え、平成20年度に設置された大学院保健学教育部(修士課程)の院生5人の指導にあっています。「人を大切にしたいなら、まずは自分を大切に」と説く前田教授の研究室を訪ねました。

学生が行う性感染予防教育

前田教授の下、希望する学部生は、思春期の性感染予防をテーマにした高校生の健康教育プログラムに参加します。高校生と年齢が近い学部生が参加することによって、高校生に性感染症の問題をより身近な問題として考えてほしいからです。一方で、学部生がこのプログラムに参加して学ぶことも少なくありません。

「このプログラムでは、“仲間”をキーワードに、自分の意見の表し方

や相手の話の聞き方などのコミュニケーション能力を高める訓練を行います。高校生に、望まない妊娠や性感染症の予防のために『ノー』といえる人になってほしいからです。ただ、このプログラムは、学部生にとってもまた大事な教育の場でもあるんです」と言う前田教授。

インストラクターとしてプログラムに参加した学部生は、ゲームや討論などを通して高校生に性感染症についての知識を伝え、共に語り合う中で、相手を理解して円滑なコミュニケーションを図る力をつけること

ができるからです。それは、将来、医療や福祉の現場で病気と闘う人たちをサポートする立場になったとき、基礎力として役立ちます。

職場にいい影響を与える力を

平成20年4月からスタートした大学院保健学教育部(修士課程)。「看護教育」「感染症ケア」を専門とする前田教授のゼミには、前年まで保健師として働いていた久保園郁子さんや本学医学部附属病院の現役看護師、相馬実希さんたち5人が所属し

ています。

仕事を持っている人が多いため、ゼミは夜間に開講することが多いそうです。取材に訪れた日も、病院での勤務を終えたばかりの相馬さんたちが息を切らして教室に駆け込んできました。「看護師として仕事を続ける中、もっと勉強したいなと思い始めたころ、大学院ができると聞いて入学しました」という相馬さん。疲れた様子を見せることなく、ノートを開くと、自身の研究テーマとして取り組んでいる院内感染予防について発表。ゼミは、それをもとに皆で意見を出し合う形で進みました。

「学んだことを現場で生かそうと思っても、組織の中では十分に生かされないことがあると思います。でも、科学的根拠に基づいた意見を伝えることで、職場にいい影響を与えることができる。ゼミでそんな力を培ってほしい」と前田教授は語ります。

自分を大切にしよう

時には過酷な労働が続く医療現場。中には、心身ともに疲れ果て、仕事を中断してしまう看護師も少なくありません。前田教授は、そんな看護

高校のホームルームで「予期せぬ妊娠で人生がどう変わるかを考えよう」と促す学部生(写真中央)。

高校生を対象に、夏休みの宿泊訓練として行った「健康教育プログラム」。高校生も学部生も私服で参加します。その訳を前田教授は「私服で自分を表現することが自分理解につながり、それがひいては他者理解につながるからです」と語っています。



夜間に開講されている院生のゼミ。テーブル上のフラワーアレンジメントは、修士1年の久保園さんの手づくり。優しい配慮がみんなの心を癒します。

師たちの心を支えるプログラムの推進にも力を入れています。

「自分自身が疲弊してしまったとき、話を聞いてくれる人がいる心地よさを体験すると、相手の話をしっかり聞いてあげることが大きな力になると気付きます。それが、病気と向き合う患者さんをどう支えるかという看護師自身の力につながります。

“人のために”という志を持った看護で、自分が疲弊してしまっただけではありません。研究室を巣立つ卒業生には、まず自分自身を大切にできる人になってほしいですね。前田教授のメッセージは、学部生や高校生をはじめ、医療や福祉の現場で働く人たちに向けて発信されています。





次世代を担う研究者・技術者育成のために 第2回学生国際会議を北京大学で開催

平成 19 年度採択の大学院教育改革支援プログラム「大学院科学技術教育の全面英語化計画：グラシウス (GRASIUS)」の一環として、第2回学生国際会議 (ICAST) を平成 20 年 12 月 22 日・23 日の 2 日間、北京大学で開催し、熊本大学から 47 名の学生が参加しました。

国際的に魅力ある大学院を目指して

理学と工学を融合した自然科学の広範な領域をカバーする大学院として、国内外に優れた人材を輩出する大学院自然科学研究科。多様化する社会のニーズに柔軟に対応し、国際的視野を持つ実践的・創造的な人材の育成に取り組んでいます。

中でも、教育研究両面での国際化を一段と加速すると期待されているのが、前述のグラシウスです。講義やテキストなどに段階的に英語を導入し、共通言語の英語化を目指しています。

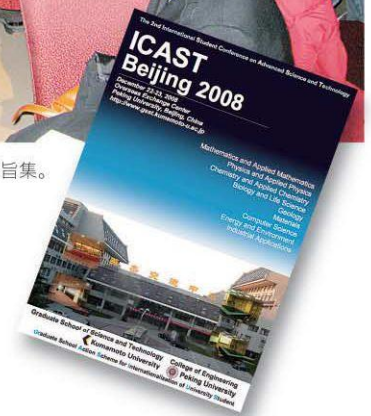
会議参加が次世代を担う研究者へのワンステップ

「学生たちには世界に通用する研究者、技術者になってほしい。世界の舞台では当然、英語が共通語となります。学生のうちから国際会議という場で論文発表や座長経験をすることで語学力のステップアップが図れるし、国や研究分野を超えて互いに刺激し合える仲間にも出会えます」と語るのは大学院自然科学研究科長の檜山隆教授。

同研究科では、グラシウスの一環として、平成 19 年度から交流協定校を中心とした海外の大学と学生国際会



活発に意見が交わされたポスター発表会(左)とプログラム・要旨集。



議 (ICAST) を共催しています。1 回目を本学で開催したのに続き、2 回目となる今回は、本学をはじめ共同開催校の北京大学工学院、四川大学、桂林工学院、ハルビン工科大学、インドネシア・スラバヤ工科大学などの学生が参加。各自の論文を英語で口頭発表。また、ポスター発表などを通じて、熱い討論を展開しました。

「将来は正式な研究発表の場として学生国際会議が国際的に認められれば」と檜山教授。平成 21 年度には、韓国の梨花女子大学校での開催が予定されています。

「いろいろな国の教員や学生がキャンパスにいたることが当たり前になって、国際化という言葉が大学から早く

なくなっしてほしいですね」と語る檜山教授。国際的に開かれた大学へ向かって、本学は着実な一歩を踏み出しています。



「学生には、在学中に一度は国際会議で発表するよう指導しています」と語る檜山大学院自然科学研究科長



休みにはニュージーランド各地を旅行。この写真は、映画「ロード・オブ・ザ・リング」のロケ地を訪ねたときのものです。



南 貴之

教育学部小学校教員養成課程4年。
2007年2月から12月まで、
ニュージーランド・マッセー大学
に留学。

思い立ったら行動を

1年生の2月、掲示板でマッセー大学の留学希望者を追加募集しているのを見て、「これはチャンス」と応募しました。副専攻で外国語(英語)科を専攻していますが、英語に自信があったわけではありません。留学申請をすると、4月までにTOFELを受験することが条件でした。それから毎日、本学の語学学習支援システムCALLなどを活用して英語を猛勉強しました。

マッセー大学では、大学付属の語学学校で英語力を高めた後、一般学生の授業に参加しました。チュートリアル時間は発言しないと授業に参加していないとみなされるので、いつもどきどきしながら発言。クラスに日本人は僕だけだったので、先生が常に「少数意見」として大切に扱ってくれたこともあり、緊張感と達成感を楽しむことができました。

世界各地から多くの留学生が来ていて、各自が自国の料理を持ち寄るポットラックパーティが頻繁にありました。僕もバラ寿司と照り焼きチキンを作り、特に照り焼きチキンが好評でした。いろんな国・地域の人に出会い、いろんな習慣を知ることができ、貴重な経験をさせてもらったと思います。

留学前までは英語圏の国の英語を話さなくてはと考えていましたが、英語圏以外の留学生たちと会話する中で、英語はコミュニケーションツールであって、発音にとらわれすぎることはないと思えるようになりました。また、帰国後、勉強に対する取り組み方が以前とは違ってきました。テストのための勉強ではなく、自分のやりたいことをやるための勉強をしようと思います。とにかく、情報収集能力があれば、後はどうにかなる。思い立ったら行動することが大事ということ学びました。

国際交流 Report 平成20年12月~21年2月

12月8日 / チェコ・オストラバ工科大学副学長来学

11日 / 留学生交流パーティを開催

本学の留学生が学内・学外関係者約300名と親睦を深めました。

15日 / 大学院 GPIIT 時代の教育イノベーター育成プログラム
熊本大学国際教育セミナーを開催

英国ロンドン大学教授 David Watson 卿による知識社会に対応した大学改革に関する講演に、50名(うち学外4名)が参加しました。

22日 / 北京大学にて第2回学生国際会議 (ICAST Beijing 2008) を開催(23日まで)(P11 参照)

1月5日 / 熊本大学と熊本大学生協は、全国の国立大学で初めて「TABLE FOR TWO (テーブル・フォー・ツー、略TFT)」運動を開始しました(P18 参照)

15日 / 韓国・培材大校一行来学

15日 / JICA プロジェクトセミナー「高等教育における日本とインドネシアの連携-JICA プロジェクトを通して熊本大学ができること・すべきことを考える」を開催

平成20年11月に本学と東部インドネシア5大学との間で、交流協定が締結されたことを記念し、日伊間の国際協力に本学ができることについて議論を深めました。37名が参加しました。

15日 / フランス外務省が主導するフランス-アジア研究交流プログラム第5回 ICT-Asia Programme に採択されました

フランス・韓国・日本・シンガポール・中国の大学研究所が2年間の予定で、次世代知能自動車、ロボットのナビゲーション環境感知そして自律走行に関し共同研究を展開予定です。

19日 / タイ・コンケン大学(本学の交流協定校)研究者4名が来学

22日 / 国際シンポジウム「地域における紛争解決と市民参加」を開催

法学部及び「質の高い大学教育推進プログラム」(教育GP)が共催し、約20名が参加しました。

27日 / 熊本大学国際化推進機構開設記念式典及び国際化シンポジウムを開催

本学の国際化を全学的に推進する組織として、1月1日付で国際化推進機構が発足しました。当日は記念講演会や開所テープカット式を行いました。式典及びシンポジウムに学内外あわせて200名以上が参加し、活発な意見交換を行いました。



29日 / 熊本県銀行協会から熊本に在住する外国人留学生に自転車が寄贈されました。うち本学には8台が寄贈されました



2月2日 / 本学医学部附属病院内食堂(財団法人恵和会)でもTABLE FOR TWO 運動が始まりました

4日 / 韓国科学技術院(KAIST)で「CERC-SCMRC 3rd International Workshop」を開催

熊本大学、韓国科学技術院及びソウル国立大学校の研究者が衝撃エネルギー工学について研究発表及びポスターセッションを行いました。約50名の研究者、学生が参加しました。

15日 / 留学生実地見学旅行(大分県宇佐市、別府市 他)(16日まで)

約100名の本学留学生が参加し、日本の歴史・文化への理解を深めました。



28日 / 文部科学省専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラムの第4回国際シンポジウム「臨床法学教育の実践と展望」を開催

約50名が参加しました。



放射線科医は縁の下の力持ち



株式会社ワイズ・リーディング
代表取締役
放射線科専門医 医学博士

なか やま よし はる
中山 善晴さん
(平成7年度 医学部卒業)

医療格差を減らしたい

幼い頃、体が弱く、将来は医療の道に進みたいと思うようになりました。生まれ育った地元・熊本の医療に貢献したいと医学部に進学。卒業後は放射線科医として熊本大学医学部附属病院の放射線科に勤務し、天草市や人吉市の地域医療センターなど、地域の中核医療を担う病院にも勤務しました。

医師としての経験を積む中で感じていたのが、地域医療の格差の大きさです。MRI 検査などの画像診断や読影の技術は、習得に10年ほどかかります。しかし郡部には診断できる専門医が少ないため手術や医療方針決定に時間がかかり、生命の危機に直面するケースも少なくありません。医療格差を減らす環境づくりが重要と考え、2007年7月にネットワークによる遠隔画像診断を行う会社を立ち上げました。

画像診断は職人技

現在は午前中に病院勤務、午後は会社の業務に従事する毎日です。緊急の画像診断依頼があれば夜中でも対応します。職人技ともいえる読影や画像診断は、手術や治療の方向性を決める羅針盤のようなもの。その技術を持つ放射線科医は“ドクターズ・ドクター”と呼ばれ、縁の下の力持ち的存在です。自分の画像診断を基に治療方針が定まることに責任とやりがいを感じるし、医師冥利につきると思っています。

私は熊本が好きで、医療を通して熊本に貢献できればという思いからこの道に進みました。今は、地方でも大きく羽ばたける時代です。後輩の皆さんもしっかり勉強して、地域に貢献できる社会人を目指してください。



送られてきた画像を見て診断する中山さん。



スイスの製薬メーカーで臨床試験を担当中



F Hoffmann-La Roche, Ltd.
(ロシュ社・スイス)
新薬開発部門

ふくしま ゆみ
福島 優美さん

(平成12年度 薬学部卒業 平成14年度修士修了)

新薬の可能性を見る醍醐味

現在は、スイスの本社で主に早期開発品目の臨床試験を計画・実施し、薬物動態や有効性、安全性を調べる仕事をしています。患者さんを対象にした大規模な臨床試験実施を判断するためのデータ提供などを行います。新薬の国際開発に向け、開発計画や戦略を同僚たちと討議しながら、臨床試験を通して新薬の価値を見出していくのは、新薬開発の醍醐味です。新薬の可能性を真っ先に目の当たりにできる仕事に、何にも代え難いやりがいを感じています。

積極的な挑戦が活路を見出す

高校生の頃、血中薬物濃度に基づいた薬物治療に貢献する病院薬剤師の新聞記事を読んだことが薬学部に進学するきっかけでした。

学部時代にはアルバイトで資金を稼ぎ、イギリスやアメリカに短期語学留学。院生になると、ドイツでの研修やカナダへ短期留学をしました。国外の製薬メーカーへの就職に際して敷居の高さを感じなかったのは、学生時代の積極的な海外での研修・留学経験のお陰だと思えます。学部で学んだ知識はもちろん、研究室で社会人としての振る舞いを求められてきたことも、職場でのコミュニケーションに大いに役立っていると感じます。

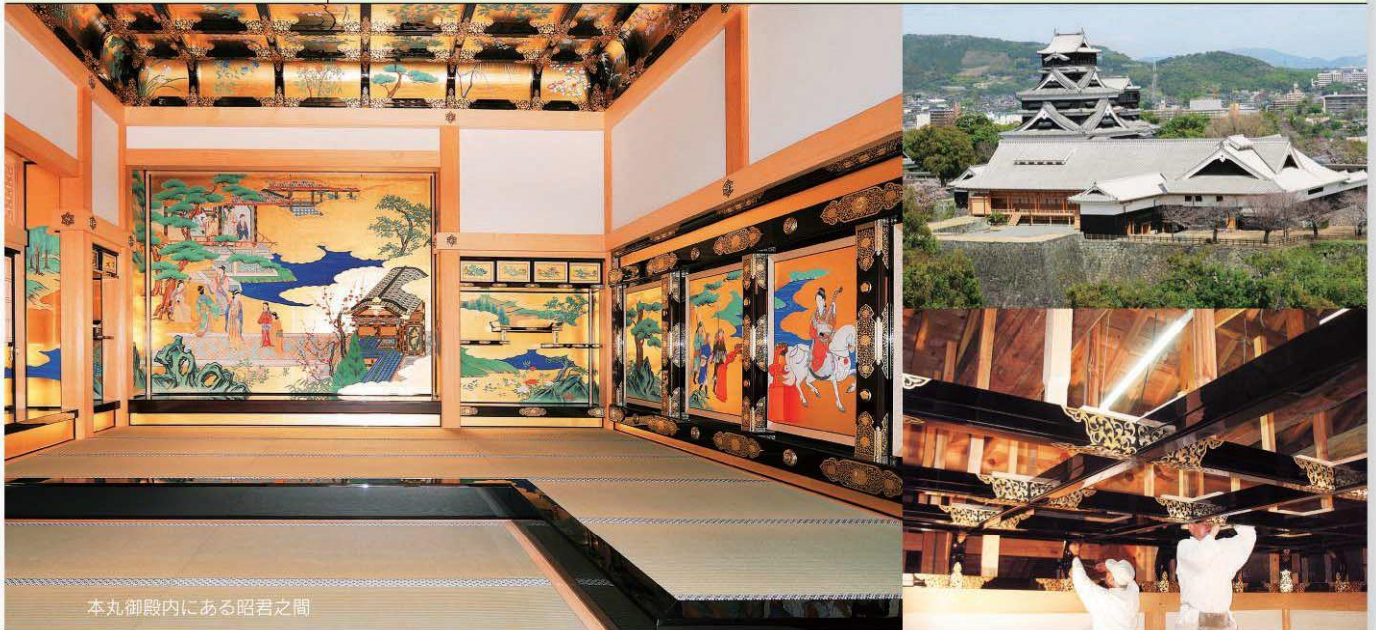
学生時代には、興味のあることには何にでも挑戦しました。先生にも遠慮なく相談し、研究や留学なども応援していただいて、自分の活路を見つけられました。それが、今も心から楽しんで仕事を続けられる下地になっていると思えます。



オフィスで打ち合わせ中の福島さん。

400年前の空気が、今もそこに

昨年、築城400年を迎えた熊本城は、城造りの名人として知られる戦国武将・加藤清正が築城。大阪城、名古屋城と並ぶ日本三名城の一つです。城内には国の特別史跡や重要文化財に指定された建造物が数多く残されていますが、現在、城郭全体を400年前の姿に戻す復元プロジェクトが進められています。熊本大学の研究者もこの取り組みに参加しています。



本丸御殿内にある昭君之間

傷や汚れも大切な史跡

“武者返し”と呼ばれる独特の曲線を描く見事な石垣、国の重要文化財に指定された宇土櫓をはじめとする多くの櫓群、堂々とそびえる大小の天守閣。熊本大学で教鞭をとっていたころから、熊本城に関するさまざまな資料を集め、研究を行ってきた北野隆熊本大学名誉教授は、「これほどの規模できちんと整備されている城郭は、現在ほかにないのでは」と語ります。

建造物だけでなく、加藤清正や細川家の歴代当主ほか、武士たちがつけた傷や汚れも「大切な“史跡”です」と北野名誉教授。「熊本城に行けば、人生80年といわれる私たちでさえ、400年前の空気を感ずることができるのですよ」

熊本城は、現在放送中のNHKの大河ドラマ「天地人」のロケ地にもなりました。熊本城に残る“当時の空気”が、撮影地に選ばれた理由の一つなのかもしれません。

本丸御殿の復元工事が完了し一般公開が始まった昨年、熊本城の年間入場者数は200万人を超え、全国の城郭の中で最多を記録しました。北野名誉教授は、復元課題検討委員会のメンバーとして復

元事業に参加。(財)永青文庫などが所蔵する間取り図や平面図をもとに、復元設計が本来の建物に忠実であるかどうか、現在も残る土台の石をそのまま使えるかといった調査や当時の工法指導などに携わりました。

よみがえる古の姿

「史跡とは、たとえ建物が残ってなくても、想像力を膨らませ、往時に思いをはせる場所です。建物を復元する場合は、できる限り史実に忠実でなければなりません」と北野名誉教授。本丸御殿では、往時を忠実に復元するため、現代風のスロープではなく階段を復元しました。現代人の日常とは一線を画した、本物の古の姿こそが熊本城の魅力です。

熊本城では、今後も幾つかの建物の復元を予定しています。どんな400年前の空気が再現されるのか楽しみです。

長年にわたり、熊本県の建築史研究をリードしてきた北野熊本大学名誉教授



Topics

第1回熊本大学 「東光原文学賞」 受賞者決定

熊本大学の前身の一つ、旧制第五高等学校の教壇に夏目漱石が立ったことはよく知られています。そこで、読書への関心を高め、学生の文章作成能力の向上を図るために、昨年「東光原文学賞」を創設しました。

応募総数 29 編の中から選考

「東光原文学賞」は留学生も含む熊本大学の学生全員に応募資格があります。

ジャンルは「小説」。昨年5月下旬から10月まで募集した第1回「東光原文学賞」には、理系・文系を問わず29編の応募がありました。厳正な審査の結果、大賞1編、優秀賞2編を選考。今年1月16日に表彰式が行われ、賞状とトロフィー、副賞が受賞者に贈られました。

受賞作品は附属図書館報「東光原第53号」(3月発行)に掲載されています。また、附属図書館HPでもご覧いただけます。



前列左から永尾さん、島田さん、田口宏昭附属図書館長(当時)、神野さん。後列は選考委員。左から、小野友道顧問(熊本保健科学大学長)、西川盛雄教育学部教授、西槇偉文学部准教授。

大賞
受賞

題名「深海魚」

島田ひとみさん(医学部医学科4年)

「歩くことで想像力が高まります」

読書に関しては島崎藤村、三島由紀夫、太宰治など、少し前の日本人作家の作品が好きです。最近は舞城王太郎さんにも興味を持っています。「深海では、魚はたまにしか遭遇しない」(本当かどうか分かりませんが)ということにロマンを感じたことが、小説を書いたきっかけです。もし小説を書きたいのなら、歩くことをお勧めします。自転車より、いろいろなことが頭に浮かびますよ。

題名「森は語らない」

永尾美由香さん(教育学研究科2年)

「友だちが受賞を必死に祈ってくれました」

紹介してもらった本はもちろん、自分が気になったものは、小説でも雑誌でも漫画でも論文でも読むようにしています。受賞の知らせは、すごくうれしかったです。その時点で大賞かどうかは決定していたはずですが、友人が「大賞になりますように!」と必死に祈ってくれたことにも感激しました。今後も小説を書き続けたいと思います。

優秀賞
受賞

題名「カラー・クイーン」

神野哲平さん(医学部医学科5年)

「作品の根底にあるのは“怒り”です」

小説だけに偏らないように、科学、歴史、建築などいろいろなジャンルの読書を心がけています。今回の受賞作品は、自分の安楽な生活を支えてくれるサイエンスに敬意を持たない人たち、知的好奇心や向上心を持たない人たちに対する“怒り”が出発点でした。テーマのヒントを与えてくれた同級生や、下読みに付き合ってくくださった方々に感謝します。

優秀賞
受賞

※東光原とは、旧制五高時代にグラウンドだった現在の附属図書館付近の呼称。 ※受賞者、選考委員の所属等はいずれも受賞当時。

平成 20 年度 学生表彰

団体名	大会等名	種目等名	成績
団体	吹奏楽部	第 56 回全日本吹奏楽コンクール	大学の部 銀賞
	舞踏 研究部	第 44 回全九州春季学生競技ダンス大会	団体 優勝
		第 44 回全九州秋季学生競技ダンス大会	団体 優勝
		第 37 回全九州学生競技ダンス選手権大会	団体 優勝



氏名	所 属		大会等名	種 目 等 名	成績
	学部	年次			
那須 正明	法学部	4 年次	第 44 回全九州春季学生競技ダンス大会	クイック種目	優勝
			第 44 回全九州秋季学生競技ダンス大会	クイック種目	優勝
岡村 奈保	理学部	4 年次	第 37 回全九州学生競技ダンス選手権大会	ワルツ・タンゴ・クイック 3 種目	優勝
			第 44 回全九州春季学生競技ダンス大会	サンバ・バソドブレ 2 種目	優勝
廣瀬 健康	工学部	4 年次	第 44 回全九州秋季学生競技ダンス大会	サンバ・バソドブレ 2 種目	優勝
			第 37 回全九州学生競技ダンス選手権大会	サンバ・バソドブレ・チャチャチャ 3 種目	優勝
大坪 正代	法学部	4 年次	第 44 回全九州秋季学生競技ダンス大会	サンバ・バソドブレ 2 種目	優勝
田上 雅浩	理学部	4 年次	第 44 回全九州秋季学生競技ダンス大会	ルンバ種目	優勝
杉下 苑未	文学部	4 年次			
坂本 大輔	教育学研究科	1 年次	技術科教員指導能力認定試験 「日本産業技術教育学会」		会長賞
大村 詠一	教育学研究科	1 年次	スズキジャパンカップ 2008 第 25 回全日本エアロビック選手権全国大会	一般男子 シングル	優勝
			第 8 回全日本学生エアロビック選手権大会	男子 シングル	優勝
松本 宇生	工学部	4 年次	第 10 回テコンドー・ワールドフェスティバル&コア・クラシックオープン 2008	フェザー級	第 3 位
			第 2 回全日本テコンドー選手権大会西日本地区大会	フェザー級	優勝
高八重 良太	法学部	3 年次	第 2 回全日本テコンドー選手権大会西日本地区大会	バンタム級	準優勝
			第 6 回九州学生テコンドー選手権大会	バンタム級	優勝
満見 裕之	工学部	3 年次	第 6 回九州学生テコンドー選手権大会	ウェルター級	優勝
三宅 勝幸	教育学研究科	2 年次	第 36 回九州学生陸上競技選手権大会	男子 400m	優勝
野村 みや	教育学部	4 年次	第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 800m	優勝
			第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400m R	優勝
和田 尚士	教育学部	3 年次	第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	男子 400m	優勝
中尾 有沙	教育学部	3 年次	第 78 回九州学生陸上競技対校選手権大会	女子 三段跳	優勝
			第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 走幅跳	優勝
			第 63 回九州陸上競技選手権大会	女子 三段跳	優勝
中村 絵美	教育学部	3 年次	第 63 回九州陸上競技選手権大会	女子 400m H	優勝
			第 36 回九州学生陸上競技選手権大会	女子 400m H	優勝
山本 紗矢香	教育学部	3 年次	第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400m R	優勝
堤 詩織	教育学部	2 年次	第 78 回九州学生陸上競技対校選手権大会	女子 800m	優勝
			第 36 回九州学生陸上競技選手権大会	女子 400m	優勝
			第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400m R	優勝
山下 亜希子	教育学部	1 年次	第 58 回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400m R	優勝
田上 綾子	教育学部	3 年次	第 9 回九州学生馬術女子選手権大会		優勝
鹿田 慧	自然科学研究科	2 年次	第 25 回九州マンドリン独奏コンクール	マンドセロの部	第 2 位
横山 聡子	文学部	1 年次	第 21 回 ACC 学生 CM コンクール	テレビ CM 部門	銅賞

国立大学初！ TABLE FOR TWO (TFT) 運動を開始

食生活を見直し、国際貢献に取り組みきっかけにしようと、本学は、今年1月5日から、全国の国立大学では初めて TFT 運動を開始しました。先進国の肥満解消と途上国の飢餓を救う一挙両得の案として、2007年から始まった日本発の国際貢献運動です。健康に配慮した指定メニューを食べると、途上国の学校給食1食分に当たる20円が寄付されます。先進国と途上国で時間と空間を超えて一つのテーブルを囲むという意味から、この名前がつけました。

黒髪キャンパスの大学生協学生会館食堂で先行スタートし、2月には本荘キャンパスの医学部附属病院の花みずき食堂でも始まりました。



途上国では、学校で給食が食べられるという理由で、学校に通う子どもたちも多い。

TFT TABLE FOR TWO



TFTに指定された定食を食べる本学職員

大学院博士後期課程の学生に独自の奨学制度を創設

本学は、平成21年度入学生から大学院博士後期課程(医学教育部の博士課程を含む)のすべての学生(ただし、授業料免除を受ける学生、国費外国人留学生などを除く)を対象に、本学独自の奨学制度を創設しました。優秀な学生を確保し、本学における教育・研究の活性化を図ることが目

的です。本学の研究補助業務に従事する対価として、年間授業料の半額程度の経済的支援を行います。

問い合わせ：熊本大学企画部企画課
TEL：096-342-2031

My book レビュー

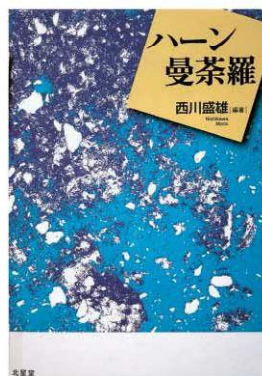


『メチル水銀を水俣湾に流す』

総合情報基盤センター教授 入口紀男

メチル水銀中毒症の恐ろしさは、西欧では既に日本の幕末のころから大衆に知られていました。本書は、水俣生まれの著者が解き明かす封印のメチル水銀史であり、あわせて古く美しい水俣を描いています。

著者：入口紀男
定価：1,900円(税別)
発行：日本評論社



『ハーン曼荼羅』

教育学部元教授(平成21年3月退職) 西川盛雄

ハーンの多面性は曼荼羅という言い方がふさわしいでしょう。彼は新聞記者、教育者、作家、民俗学者、翻訳家、科学ジャーナリストと多岐に渡ります。本書は熊本大学に関係する7人の執筆者が寄稿しており、ハーン研究における新たな一石となっています。

編著者：西川盛雄
定価：2,600円(税別)
発行：北星堂

上記図書は、附属図書館「熊大コーナー」にも置いてあります。

本学研究者の論文などの学術研究成果物は、図書館HP内の「熊本大学学術リポジトリ」でご覧になれます。附属図書館 <http://lib.kumamoto-u.ac.jp>

平成21年度 熊本大学公開講座 募集一覧

講座名	内容	開講開始月	対象者	受講料
明治くまもと文学散歩	明治の熊本文学を語る上で欠かせない作家を、専門家がそれぞれの視点で語ります。	9月	一般社会人	7,200円
野の花と遊ぶ	それぞれの専門家が野の花のスライドなどを用いて分かりやすく、楽しく遊び感覚で講義します。	9月	一般社会人	7,200円
民俗学の巨人たち	日本の民俗学を確立した柳田国男、芸能や宗教を論じた折口信夫、民衆の知恵を探って旅を続けた宮本常一。日本の民俗学を代表する3人の研究者の足跡を追いながら、民俗学の面白さや意義についての理解を深めます。	7月	一般社会人	6,200円
ドイツにおける日本 —日本におけるドイツ	日独交流史のはしまりは遡ること17世紀。文学・音楽・科学をはじめ、あらゆる面での両国の文化的接触は、熊本の地においても見られます。現代までの日独交流の足跡をあなたと一緒にたどってみませんか？	5月	一般社会人・高校生	7,200円
ワグナー芸術 への招待	ワグナー最後のロマン派オペラ「ローエングリン」と楽劇「トリスタンとイゾルテ」の台本（独日対訳）を読むとともに、要所をCDで聴くことによってドラマの内容を十分に把握し、最後に全曲のDVDを迫力の大画面で鑑賞します。	6月	一般社会人・高校生	10,200円
映画の魅力を楽しむ	カントリー音楽のプチコンサートにはじまり、アメリカやフランスのフィルムノワール、夏目漱石やラフカディオ・ハーン作品をもとにした映画の紹介など、映画ファンも思わず唸る、映画の楽しみ方、お教えします。	10月	一般社会人・高校生	6,200円
陶芸教室	もの作りを通して生涯学習として、市民一般を対象に陶芸の基本的な知識や技術の習得を目指し、開かれた学校づくりを推進します。陶芸をやってみたくという方も、応用を学びたいという方もわかりやすく指導します。	5月	一般社会人・高校生・ 障害者(児)	10,200円
陸上競技教室 —速く走る秘密—	最新の機器を使うことで、自分の身体やフォームを理解し、楽しみながらトレーニングすることができます。指導には高い競技レベルの選手がいたり、素晴らしい実践を見せてくれることで、視覚的にも子ども達に効果的な内容を展開できます。	7月	小学生・中学生・高校生・ 指導者や教員、コーチなど	8,200円
くらしの中の 生命科学	お酒を少し飲んだだけで赤くなる人もいれば、どんなに飲んでも酔わない人もいます。さて、あなたはいかがですか？ 実はその違いには遺伝子が大きく関わっています。簡単な実習を行い、ひとりひとりの個性(体質)に遺伝子が深く関与していることを実感してみませんか。	6月	一般社会人	5,200円
今、バイオが おもしろい —命の神秘をさぐる—	バイオ(生物学)の研究は、遺伝子研究で象徴されるように、まさに日進月歩の勢いで進んでいる。バイオといういかにも難しそうに捕らえられがちであるが、そもそも私たち自身が生物の一種であり、生物学研究のテーマは今でもいたるところに転がっている。本講座では特に最近のこの分野の話題を取り上げながら、生物学研究の楽しさについて語りたい。個々の生命が軽んじられている昨今、この地球上に奇跡的に生まれた命の大切さを再認識したい。	6月	一般社会人・高校生	7,200円
健康で幸せな おもてなしを考えよう	単なるサービスではなく、それを超越した「おもてなしの心」。現代では地域の健康活動や医療、観光産業等に欠かせないものとしてホスピタリティ・サービスの考え方が叫ばれています。熊本の"人"という観光資源を育てませんか？	9月	一般社会人	9,900円
行政分析講座	公務員として公共政策に関する専門知識を得たいと考えている方や、市民として公共性を形成することについて参画していきたいと考えている方を念頭に置いた講座内容です。将来、社会人として公共政策系大学院進学を考えている方も、最適です。	7月	公務員・一般社会人	7,500円
先生のための食育講座	さかんに叫ばれるようになってから久しい「食育」。知育、徳育、体育の基礎となり、なによりも子供の心と体の成長に影響を与える重要なファクターです。小児生活習慣病から食物アレルギー対策、スポーツと食の話やサプリメントの基礎知識など、食育の第一線の研究者たちが講師を務めます。	8月	教育機関職員・保健師・ 栄養士・食育に携わる方・ 他専門職業人を志す方	8,700円
教師が使える カウンセリング講座	傷つきやすく傷つけやすい、薄人間関係しか持たず、協同性の乏しい今日の児童生徒の成長を支える志豊かな先生方の参加を望んでいます。なごやかで楽しい雰囲気での講義と実習で、明日から実践できる講座です。	6月	一般社会人・教師・保育士・心の 相談員・子育てサポーター・子 どもの心身の成長に貢献したい人	9,900円
看護倫理セミナー	看護倫理原則(自律、善行、無危害など)の考え方や倫理分析手法を学びます。倫理問題がひそむ事例の分析・検討を通して倫理感性を高め、倫理対応能力を磨きましょう。	6月	看護職および看護倫理に 興味のある方	8,700円
インストラクショナル デザインセミナー	臨床で研修を企画する研修担当者や看護教師がインストラクショナルデザインに関する理論を学ぶことで、授業案や研修案を改善する力が磨かれます。	11月	看護職または看護授業担当者・ 看護教師	8,700円
看護診断セミナー	新しくなったNANDA-I看護診断とNOC(看護成果)、NIC(看護介入)のリンケージを学びます。	10月	看護職・看護教師・ 看護診断を学びたい人	8,700円
リーダーシップ・ トレーニング(熊本)	組織や集団におけるリーダーシップを改善・向上させるため、グループワークを中心とした実践的なトレーニングを実施します。	8月	一般社会人・団体・ 組織のリーダー	9,900円
リーダーシップ・ トレーニング(東京)	組織管理に関する科学的な知識をもとにリーダーシップの改善・向上を図るとともに、リスク・マネジメントについても考えます。	9月	団体・組織のリーダー	9,900円

*公開講座の詳細については、本学ホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください。

申し込み・問い合わせ

熊本大学研究・国際部社会連携課 TEL: 096-342-3121 FAX: 096-342-3239
E-mail: manabou@jim.kumamoto-u.ac.jp
URL: http://www.kumamoto-u.ac.jp/

EVENT 掲示板

薬学教育部附属薬用植物園の催し

薬用植物園は、いつでも見学ができます(平日午前9時～午後5時。事前申し込み必要)。散策気分でお越しください。

①薬用植物観察会

開催月の薬用植物、身近な植物の観察やお話をします。

■開催日時：毎月第1土曜日 午前11時～午後1時

②初級漢方とハーブ

“やさしい漢方薬”の本を使って、よく用いられる漢方薬や身近なハーブを分かりやすく解説します。

■開催日時：毎月第4日曜日 午後7時半～同9時半

③「傷寒論」勉強会

傷寒論の本をゆっくり読みながら、内容を分かりやすく解説します。

■開催日時：毎月第2木曜日 午後7時半～同9時

④第8回薬用植物を知ろうin熊本(阿蘇)

5月31日は南阿蘇休暇村からスタート。阿蘇の草原を楽しく説明をしながら観察します。湿気の多いところにあるイワタバコ等を観察できるかもしれません。

■開催日時：平成21年5月30日 薬用植物園観察会(午前10時～)、講演会(午後1時～)
同31日 阿蘇での観察会(午前9時半～午後3時半)

■開催会場：①は熊本大学薬用植物園、②③は園内管理棟2階、④の5月31日は阿蘇

■参加対象者：どなたでも

■事前申込：④のみメールかファックスで申込み必要

(但し、①～③は都合により変更があるので、事前にお問い合わせください)

■参加費：資料代や保険代として、①②③は100円、

④の5月30日は500円、5月31日は1,000円

■問い合わせ先：大学院薬学教育部附属薬用植物園 矢原正治

TEL・FAX：096-371-4381

E-mail：yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学教員美術展 アートするプロフェッサー

本学教員が研究の合間をぬって制作した絵画や木工などのアート作品を展示します。

■開催日時：平成21年3月19日～5月18日
午前10時～午後4時(入館は3時半まで)
5月12日(火)のみ休館

■開催場所：熊本大学五高記念館 ■入館料：無料

■問い合わせ先：熊本大学五高記念館

TEL：096-342-2050

熊本大学設立60周年記念展示

公印の記憶

60年史編纂事業の過程で発見・整理された資料を展示しています。本学の歴史を実感していただけます。

■開催日時：平成21年3月4日～5月31日(時間は附属図書館開館時間)
第4水曜日休館

■開催場所：熊本大学附属図書館中央館1階ロビー

■問い合わせ先：熊本大学60年史編纂室

TEL：096-342-3951

CAMPUS 歴史さんぽ

行き交う学生を見守って100余年 五高正門(通称:赤門)

明治22年に竣工した旧制五高本館(五高記念館)、化学実験場やそれらの設計図とともに、国の重要文化財に指定されています。建設当時には「第五高等学校」という門札がありました、いつのころからか掛けられなくなりました。石材と赤レンガを用いた優美な姿をとどめ、往時も今も熊本大学のシンボルとして、行き交う学生たちを見守っています。



黒髪北キャンパス



山口半六、久留正道による当初の設計図

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.5(平成20年12月1日～平成21年2月28日)

卒業生、在学生の保護者、名誉教授の方々をはじめとした皆様から、平成21年2月28日現在で、総額約2億1,603万円(うち熊本大学振興会からの寄附約1億2,063万円を含む)のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成20年12月1日から平成21年2月28日までの間にご入金を確認させていただきました個人197名、3法人・団体等のご寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。公開をご希望されないご寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話：096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標金額を10億円としております。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者 [寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。] ※()内の数字は、累積寄附金額(万円)です。

500万円	株式会社 NIPPO コーポレーション								
200万円	東レ株式会社								
100万円	崎元 達郎(500)	西田 誠							
30万円	山内 英治								
20万円	小野 友道	相良 勝郎	田中 征治						
10万円	川島 文憲(20)	平和 孝嗣	古川 昌弘	吉田 勇(20)					
5万円	出田美穂子	岩本 俊輔	菅野 幸裕	瀬戸口隆雄					
5万円未満	赤嶺 炫夫	荒木 照之	荒牧喜久男	安藤孝太郎	角口 芳子	杉谷 勝	丹生 正作		
	庭木 守彦	乗田 貞孝	波多野靖治	日隈 俊郎	本田 一雄	本田 知次	松尾 康成		
	松田 徹郎	松村 康弘	三池 亮次(13)	三森 昇一	山田 昭雄	吉玉国二郎(10)			

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者 [五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。] ※[]内の数字は、累積寄附回数(回目)です。

安部 次生	荒井 澄子[2]	池上 知顯[2]	石丸 盛之	伊津野好一	出良 真	今関 秀広	今関フサヨ
岩崎 一郎	岩津 整明	上田 理	上村アツコ	宇佐美しおり[2]	大津山 賢	岡 徹平	小笠原長四郎
緒方 進一	緒方 智成[2]	尾川 安正	沖津 信子	尾崎 輝武	於保 昌二	金谷 長	鹿末 トク
川崎 幹雄	川端 正子	菊川 宏也	北村 敏夫	岐部 裕子	葛谷 隆正	倉岡 隆夫	栗原 清二
後藤 達	小林 久馬	小柳倫太郎	佐藤 綾美	里中 忍	島田 恵	下川 忠治[2]	首藤 剛
白濱 昌範	神野 隆至	スノリ アンソウ	鈴木 和雄[2]	瀬之口春雄	武門 孝一	田尻 邦治[2]	田中三代之
田邊 信之	爲廣 泰造	塚本圭一郎	鶴 亦雄	寺田 雄俊	遠山 剛	徳永 通	中島 喜教
永田 徹也	中村 堯	中山 直樹	西 光雄	西 芳春	西澤 忠實	西野 宏[2]	野村 芳雄[2]
橋本美智子	林 良助	東 良一	東 恭子	廣瀬 育生	深水 郁子	藤村 秀樹	星田 義治
細 典子	榎田 長亀	松崎 保邦	松嶋 正男	松永 浩文	松村 芳雄	松本 史郎	宮崎 民生
宮崎 康親	村田 正文[2]	村山 伸樹[2]	森 昭雄	森 厚夫	森田 寿裕[2]	森山 秀吉	両角 光男[2]
山内フサヨ	山縣カズヨ	山縣ゆり子[2]	山下 嘉廣	山本 悦夫[2]	山本 信也	吉田 達明	吉田 政勝
吉村 雅敬	吉本 信子	渡辺 順一	熊本大学同友会				

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人64名、1法人・団体等

熊本大学基金「寄附者銘板」を設置しました

熊本大学基金に個人20万円(累計)以上、法人・団体等50万円(累計)以上のご寄附をいただきました皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を黒髪キャンパス(南地区)の事務局玄関に設置の「熊本大学基金寄附者銘板」に刻銘し、熊本大学の歴史に末永く顕彰させていただきます。公開をご希望されないご寄附者につきましては、掲載しておりません。

銘板色	【ゴールド(特別栄誉会員)】個人：500万円以上、法人・団体等：5,000万円以上
	【シルバー(栄誉会員)】個人：100万円以上、法人・団体等：1,000万円以上
	【ブロンズ(特別貢献会員)】個人：20万円以上、法人・団体等：200万円以上
	【ブロンズ(貢献会員)】法人・団体等：50万円以上



崎元前学長(左)と菅原前理事(基金担当)

新聞で見る
熊本大学

未来へつなぐ

熊大の
“宝”

小泉八雲翻訳 ちりめん本 (附属図書館蔵)

明治時代に外国に渡った ジャポニスム文化の一つ

明治時代に出版された「ちりめん本」と呼ばれる昔話の絵本。

和紙に多色刷り木版による挿絵を入れ、

活字を活版印刷した後、

ちりめん布のような風合いが出るように加工しています。

日本文化を伝える格好の品として、

英語のほか、ドイツ語、フランス語、スペイン語などにも翻訳され、

海外に渡りました。

写真は、五高の英語教師を務めた小泉八雲(ラファディオ・ハーン)が

翻訳した大型のちりめん本です。

八雲翻訳本は、「怪談」を著した八雲らしく少し怖い内容の話が多いようです。

ヘボン式ローマ字の創始者 J・C・ヘボンや

日本古典文学研究者の B・H・チエンバレンなどが翻訳した

ちりめん本とともに本学附属図書館に收藏されています。



手前左から「不老の泉」「化け蜘蛛」「猫の絵ばかりをかいた小僧の話」「お団子ころりん」
奥「ちんちん小袴」

熊本大学は今年60周年を迎えます

昭和 24 (1949) 年 5 月に熊本大学が発足して、今年で 60 周年を迎えます。本学では地域と共に歩んだ 60 年間に記録し、今後の発展に貢献する基礎資料を編集・刊行するために写真や資料、情報等を収集しています。皆様のご協力をお願いします。

問い合わせ：熊本大学60年史編集部 TEL：096-342-3951

<http://hensan60.kumamoto-u.ac.jp>

編集委員

田中尚人 大学院自然科学研究科

田村耕一 法学部

首藤 剛 大学院医学薬学研究部

西村兆司 広報戦略主幹

熊本大学公式ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp>

熊本大学広報誌
熊大通信
KUMADAI TSUSHIN

皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

2009年4月発行 編集・発行 / 熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号 TEL.096-342-3119 FAX.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp